



『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書



1 学校名

彦根市立霞翠小学校

2 取組内容

(1)「学校をプレイパークに！」

1	いつでもジャンプボールタッチ
	
向上を図る体力	巧みな動き
場の説明	児童玄関と運動場前の藤棚に、鈴が入ったプラスチックのボールを、少しずつ高さを変え、つるした。
使用した物	ロープ、鈴、ボール
児童の様子や成果等	運動場へ行くときや、登下校のときなど、ほぼ毎日のように、跳ぶことで、子供たちが、ジャンプ力や高く跳ぶフォームを自然に身に着けることができた。
2	リバーシゲーム
	
向上を図る体力	体の柔らかさ、巧みな動き
場の説明	場を自分たちで作って、リバーシゲームや島跳び、ストレッチができる。
使用した物	スポーツリバーシ
児童の様子や成果等	子供たちはリバーシゲームを楽しんだり、自分で工夫して、島跳びのジャンプをしたり、ストレッチに使ったりしており、体の柔らかさ、巧みな動きの向上が見られた。

3	かすいっ子握力チャレンジ・ジャベボール
 	
向上を図る体力	力強い動き、巧みな動き
場の説明	握力計やジャベボール、外遊び用のボール、長縄やバトン、大谷選手寄贈のグローブなど、自由に使えるようにしている。
使用した物	握力計、ジャベボール、外遊び用のボール、長縄、バトン、グローブ
児童の様子や成果等	子どもたちは、自由にチャレンジしたり、用具を使って遊んだりしていた。廊下に設置しているため、帰る前や外遊びに行く前に遊んでいた。

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



地域スポーツレジェンド派遣事業



校内研修や公開授業

地域スポーツレジェンド派遣事業では、第5・6学年「野球」、第3・4学年「バレーボール」の授業にそれぞれ地域在住のスポーツレジェンドを招き、専門的な知見からアドバイスをいただいた。知識・技能の習得に大きな効果があった。また、2回の公開授業を行い、県の体育保健課、市教委、市内の先生方に参観していただき、体育の授業力向上やプレイパークの実践において成果が見られた。

(3)その他



フィットネスチャレンジながさき



放課後陸上教室

3 年間のふり振り返り

本年度も体力向上推進モデル校として、学校ブレイパークの更なる充実、体育の授業研究、地域スポーツレジェンド派遣事業など体力向上に向けての取組を行った。この取組を通して、児童の体力向上、体育授業の充実を図り、楽しみながら運動に親しむ機会を設けることができた。また、昨年度まで継続してきた取組を今年度も引き続き行うことで、これまで高めてきた子ども達の運動能力を更に伸ばすことができた。次年度も、これまで積み重ねてきた体力向上のための取組を継続し、さらに改善していくことで、今年度の体力テストで課題となった持久力や力強さ、柔軟性を高めていきたい。


『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書


1 学校名

波佐見町立中央小学校

2 取組内容

(1)「学校をプレイパークに！」

1	ケンパロード
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き
場の説明	児童玄関から運動場までの区間に、ペンキで円を描いた。自然にケンパ遊びをするように場を作ることによって運動に親しむきっかけとなることをねらいとした。また、ケンパ遊びを繰り返し行うことで巧みな動きの向上につなげた。
使用した物	ペンキ、ハケ
児童の様子や成果等	運動場に行く際、必ず全児童が通る動線に配置したため、多くの児童がケンケンパやドン！ジャンケンポンをしながら通っている。成果については、次年度の体力テスト(立ち幅跳び)にて検証を行う。

2	ジャンピングタッチ
	
向上を図る体力	力強い動き
場の説明	校庭のアスレチックにジャンプしてタッチするための板をぶら下げた。ジャンプしたくなるような場を設定することで、運動場で遊ぶきっかけとなることをねらいとした。繰り返しジャンプを行うことで力強い動きの向上につなげる。
使用した物	ポリエステルロープ、ウッドまな板
児童の様子や成果等	昼休みにジャンプしながら遊ぶ様子が見られた。アスレチックの遊具を再利用しているため、元々あったアスレチックの利用も増えたように感じる。成果については、次年度の体力テスト(立ち幅跳び)にて検証を行う。

3	カラーライン
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力
場の説明	校庭横のアスファルト部分に、50cm毎にペンキで線を引いた。走り幅跳びをしたり、立ち幅跳びをしたり、反復横跳びをしたりと様々な用途で使うことをねらいとした。
使用した物	ペンキ
児童の様子や成果等	狙ったところに跳んで着地できるか、何歩で反対側まで行けるかなど想定していなかった遊びまで行っていた。設定した場の中で一番強度の高い運動遊びができていたように思える。成果については、次年度の体力テスト(立ち幅跳び、反復横跳び)にて検証を行う。

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



地域スポーツレジェンド派遣事業



校内研修や公開授業

地域のスポーツレジェンドを招いて、バスケットボールとバレーボール、ベースボール型の授業を行い、技能や主体性の向上を行った。児童は教諭よりも専門性の高い方からの指導に、主体的に学習に取り組んだ。校内研修で体育の研究授業を行い、運動が得意な児童も、苦手な児童もみんなが「共に学ぶ」ためにはどうすればよいかを授業研究会を通して考え、話し合った。

(3)その他



体育～からだづくり運動～職員研修



体育委員会による体育教室

3 年間のふり返り

今年度は「体力向上」、様々な取組を行ってきた。特に運動の機会の増加という面においてはかなりの成果が出たように思う。また、職員への体育科の研修も行い、指導のアイデアの共有や授業研究を通して指導力の向上を図った。

次年度の課題としては、県の課題と同様に柔軟性がまず第一に挙げられる。また、上体起こしにも同様に課題が見られるので、次年度はそちらの改善にも取り組んでいく。そして、今年度増加した運動の機会の習慣化を図るための取組が必要になってくると考える。体育委員会による体育教室は多くの児童が参加し、様々なスポーツに触れるよい機会にもなった。次年度も継続して取り組むことで運動の習慣化を図っていきたい。

『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書


1 学校名

東彼杵町立彼杵小学校

2 取組内容

(1)「学校をプレイパークに！」

1	登校時・下校時いつでもケンパを
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力 等
場の説明	児童玄関前にペンキを使ってケンパの円を描いた。児童が繰り返しケンパ遊びをすることで、本校の課題である筋力をつけるとともに、楽しみながら運動に取り組むことを期待した。円の色を変えることでけがの防止に努めた。
使用した物	ペンキ、ハケ
児童の様子や成果等	特に低学年には好評であり、登下校時に荷物を背負いながらも体を動かす姿が見られた。児童の中には必ず毎日ケンパをして登下校する児童もあり、円を描くだけでもかなりの効果があった。コース等まだまだ単調なものなので、空いているスペースを使い、高学年に向けた工夫も行っていきたい。

2	ボールゾーンと遊具ゾーンで体を動かそう！
	
向上を図る体力	力強い動き
場の説明	本校は全校児童数に対して、運動場がかなり狭い。昼休みに思い切りよく体を動かすことが難しく、道具を使用するとさらに運動が限られてしまう。そこで体育委員会の活動として、カラーコーンを使ってゾーンを分け、遊ぶ内容によって運動場を区切った。児童が遊びながらボール等を使って投げる力や筋力を高められるようにした。
使用した物	カラーコーン、ホワイトボードによる掲示 等
児童の様子や成果等	低学年、中学年、5年生、6年生と学年を分け、ボールが使える日を設定することでサッカーやキャッチボール、ドッジボール、バレーボール等を通して体を動かす児童が増えた。周りを気にせず遊べることで、運動に制限がかからなくなったことも大きい。今後はさらに工夫を行い、児童が遊びたいと思う遊びで体を動かせる昼休みを目指したい。

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



トップアスリート派遣事業(スポーツ庁事業)



研究授業(6年 ネット型)

分かって、できて楽しい体育の授業を目指し、7月に水泳指導の学習サポーターの招へい、10月にトップアスリートの招へいを行い、体の動かすことの楽しさについて指導していただいた。また、教員にも細かい指導の手立てを紹介していただき指導のスキルアップにつながった。全職員参加のもと、体育担当が11月に研究授業及び校内研修を行った。体育科の授業づくりについて意見交換をする良い機会となり、体育の授業に対する共通認識の意識が高まった。

(3)その他



体力向上の取組
(フィットネスチャレンジながさき)



保護者・地域体力向上実践セミナー
(PTA学年レクリエーション)

3 年間のふり返り

体育の授業以外の取組として、学校で設定している朝のふれあいタイムに「体力向上」の時間を年間6回設定し、実施した。全校でストレッチタイム(柔軟)、ランニングタイム(走力)、ジャンピングタイム(跳躍力)として3種類の力を高める運動に取り組んだ。PTA協力のもと、それらの体力向上と関連させたマラソン大会、保護者・地域体力向上セミナーの実施などを通して、運動を習慣づけようとする意識を高めることができた。年間アンケートの結果からも中学年、高学年ともに「運動が嫌い」「日頃、運動をしない」「体育が楽しくない」と答えた児童の割合がそろって減少したことがわかり、体を動かすことに対して強い抵抗感を示す児童が少なくなったと考えられる。これからの課題として、本校は運動場が狭く昼休みに遊ぶ内容が制限されていたり、登校にスクールバスを使用する児童が多く、歩く習慣が少なかったりするなど、児童が体を動かす機会を失っている現状がある。児童が「体を動かさない」という課題を克服できるようまずは昼休みのルール作り、遊ぶ場所の整備、道具の管理などから取りかかっていきたい。

『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書

1 学校名
松浦市立星鹿小学校

2 取組内容

(1)「学校をプレイパークに！」

1	「まえへ ロングジャンプ」
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き
場の説明	中庭のコンクリートのスペースに、白い基準線と足型を描き、基準線から立ち幅跳びをして、どこまで跳べるかを測る場を設定した。幅を4段階に分け、低学年から高学年まで楽しく取り組めるように設置し、瞬発力や跳躍力などの向上をねらいとしている。
使用した物	スプレーペンキ、型紙
児童の様子や成果等	児童同士が競争意識をもち、立ち幅跳びを通して自分の限界に挑戦する姿が見られた。また、互いに励まし合ったり、個々の能力を認め合ったりする場面や競い合う姿が多くみられた。
2	「ケンパロード」
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き
場の説明	中庭のコンクリートのスペースに「START」「GOAL」を設定し、その間にケンパができる丸い枠を設け、スプレーで塗装して、ケンパロードを設定した。足腰の筋力や瞬発力、跳躍力、リズム感、バランス感覚など、様々な力強い動きの向上をねらいとしている。
使用した物	スプレーペンキ、型紙
児童の様子や成果等	児童は、「START」から「GOAL」までできるだけ確実に、また、速く跳ぶことを目標に、意欲的に取り組む姿が見られた。また、異学年の児童が自然と2チームに分かれ、「START」と「GOAL」両側からケンパを始め、途中でジャンケンをして競い合う姿も見られた。

3	「ストラックアウト」
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き
場の説明	2か所に場を設定した。1か所目は、1から9までの数字を書いた同じ大きさのボードを設置した。2か所目は、コンクリート壁に、数字と色付きの円を描き、サッカーボール、ドッジボール、ソフトボールなどを使って、投げたり、蹴ったりすることで、脚力、正しい投球動作、コントロール力などの向上をねらいとしている。
使用した物	スプレーペンキ、ペンキ、刷毛、型紙、プラスチックボード
児童の様子や成果等	児童はドッジボールやソフトボール、サッカーボールなどを用いて、そのときの遊びや好みに合わせて、的をねらい遊んでいる。投げる、蹴るのどちらも楽しむことができ、ねらい通りの的に当てることができると少しずつ距離を延ばす等、工夫して遊ぶ姿が見られる。

4	「ジャンプ チャレンジ」
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き
場の説明	本校2階ベランダより、中庭に向けて、タコ糸につけたバッティング練習ボールを垂らした。高さを4段階にして低学年から高学年まで挑戦できるように設置し、弾性力、跳躍力の向上をねらいとしている。
使用した物	バッティング練習ボール、タコ糸、メッキパイプ、ミニクランプ
児童の様子や成果等	自分に合った高さに挑戦する姿が見られた。また、励まし合う姿もあった。低学年用の低いボールを使って、投げる練習をしたり、届くボールにはヘディング練習をする児童もいた。アイデアを生かしながら、遊び方を工夫する児童がいたことは、喜ばしいことである。

5	「にぎってみよう ハンドグリップ」
	

向上を図る体力	力強い動き、動きを持続する能力
場の説明	廊下に、5種類の強さの異なるハンドグリップを設置し、ハンドグリップを使ってお手玉を移動させる場を設定した。遊びながら握力を鍛えることをねらいとしている。
使用した物	ハンドグリップ、お手玉、箱、長机
児童の様子や成果等	児童は、発達段階に応じ強さの異なるハンドグリップに挑戦している。タイマーを置き、20個のお手玉をいかに速く移動できるかを競う中で、競争意識も高まっている。最も軽い15kgのハンドグリップは低学年でも気軽に扱っている。

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



アスリート派遣事業(スポーツ庁事業)



市教育研究会体育部会授業研究

アスリート派遣事業では、走り高跳びの中澤優選手にお越しいただき、早く走るコツなどの実技演習を実施した。的確な指導で分かりやすく、児童は意欲的に取り組んでいた。また、小学生のうちにやってほしいことというテーマで講演をしていただき、年齢が近い中澤優選手の話は児童の心にも響き、良い体験となった。その後の陸上競技大会では自信を持って競技に臨んでいた。

(3)その他



フィットネスチャレンジながさき(3年)



保護者・地域体力向上実践セミナー

3 年間のふり返り

プレイパークを設定したことで、児童が楽しく遊びながら体力の向上に向けた取組ができています。さらに、異学年が集うことで、協力する姿や人を思いやる譲り合いの心も育まれている。また、保護者・地域体力向上セミナーでは、親子が笑顔いっぱいブレイクダンスを行う姿があり、親子のふれあいが十分にできた。「うちでもやってみよう。」という声もあった。アスリート派遣事業では、世界選手権、日本選手権で活躍する選手と交流したり、演技を見たりすることにより、あこがれと夢が広がったようである。運動できる喜びや意欲が、児童の「楽しかった」「わかった」という声に表れていて、一生懸命取り組んだ職員の成就感、満足感にもつながった。

『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
 令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書

1 学校名

対馬市立豊玉小学校

2 取組内容

(1)「学校をプレイパークに！」

1	ジャンピングボード
	
向上を図る体力	巧みな動き、動きを持続する能力
場の説明	運動場の片隅に3台設置。 主に2重跳びの練習に活用した。 敏捷性や持久力向上を図った。
使用した物	ベニア板、角材、釘
児童の様子や成果等	登校後や昼休みなど、いつも順番待ちができるほど盛況である。このジャンピングボードで練習したことで、2重跳びができるようになった児童が多数出てきた。全身持久力や敏捷性に加え、調整力や筋持久力の向上にもつながっている。
2	スラックライン
	
向上を図る体力	体の柔らかさ、力強い動き
場の説明	校庭隅のサクラの木にロープを渡した。 上下2本設置している場所と、1本しか設置していない場所を作成。 握力の強化や筋持久力向上を図った。
使用した物	綱引き用ロープ
児童の様子や成果等	児童に何の前触れもなく設置した。遊び方も説明せずに、全てを児童に任せましたが、初日から児童がロープに群がり、大勢でロープにぶら下がったり、新しい遊び方を開発したりして楽しく遊んでいる。本校児童の課題である「握力」の強化につながっている。

3	飛び石タイヤ
	
向上を図る体力	巧みな動き、力強い動き
場の説明	校庭の隅に眠っていた古タイヤにペンキを塗り、飛び石のように並べた。筋力の向上と平衡性を高めることを図った。
使用した物	タイヤ、ペンキ、刷毛
児童の様子や成果等	飛び石タイヤも児童には何の告知もせず設置した。以前から放置してあったタイヤであるが、色を塗り、等間隔に並べると自然と児童が集まりドンジャンけんや高おになどの遊びを始めた。低学年コースと高学年コースを設置したりして難易度を変えると、それに挑戦しようとする児童も増えた。筋力とバランス感覚の向上を図ることができた。

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



地域スポーツレジェンド派遣事業



対馬市教育委員会指定「体力向上」研究発表会

地域スポーツレジェンド派遣事業では、バスケットボールとサッカーの授業に講師を派遣していただいた。専門的な指導やコツの伝授などがあり、アンケート結果からも分かるように、学習後には、体を動かすことや体育に対する思いに好意的な意見が増えた。

公開授業に関しては、対馬市教育委員会指定「体力向上」研究発表会(中間発表)に合わせて実施。3年生「セストボール」を公開した。「すべての児童が運動の楽しさを味わうことができる体育科」をめざし、場やルール工夫や対話の場の設定等を授業内容に組み込み、2年間の成果を発表した。その後の研究協議では、参観者から好意的な意見が多く出され、一応の成果を上げることができた。

(3)その他



フィットネスチャレンジながさき



親子料理教室(朝食づくり)

3 年間のふり返り

プレイパークの設置により、自主的に運動場に出て体を動かす児童が増えた。また、失敗しても繰り返し挑戦する姿が増え、運動への意欲の高まりが見られた。プレイパークの種類を徐々に増やしていったが、最初は動きが不安定だった児童も、回数を重ねるごとに動作が滑らかになったり、バランスをとる、タイミングを合わせるなどの動きに安定感が出てきたり、運動の質の向上も図ることができた。

今後もプレイパークの充実や体育科の研究を進めていく。プレイパークでは、活動に慣れてくると周囲への注意が散漫になる場面があったので、安全確認や声掛けを継続していく必要がある。体育科の研究では、活動後の振り返りで「できた」「楽しかった」で終わる傾向にあるので、「なぜできるようになったのか」「次はどうしていきたいか」まで考えさせる工夫が必要である。

『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書

1 学校名

平戸市町立生月小学校

2 取組内容

(1)「学校をプレイパークに！」

1	バトンは飛ぶよ どこまでも！
	
向上を図る体力	巧みな動き・力強い動き
場の説明	ベースボール型の遊びができるスペースに、投げる距離を競うことができる遊び場を設置した。 児童が繰り返しバトンを投げる遊びをすることで、本校の課題である「ソフトボール投げ」の向上を図った。
使用した物	ロープ、物干しざお
児童の様子や成果等	設置すると、興味を持って、児童が遊ぶ姿がみられた。また、ボールを拾いに行かなくてよいので、簡単に遊ぶことができていた。

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



第2学年 体育科授業改善研究授業 『多様な動きをつくる運動遊び』





第5学年 体育科授業改善研究授業 『跳び箱運動』(平戸市教育研究会体育部会授業)

9月と11月の2回「分かって、できて、楽しい体育授業」を目指した授業改善研究授業を行った。『多様な動きをつくる運動遊び』では、子どもたちの楽しさを引き出すために、用具を工夫したり、遊びの要素を含ませたりするとよいことを、『跳び箱運動』では、学習指導要領に掲載されている技を全て行うのではなく、基本の技を安定して行うことを目指すことが大切であることを指導していただいた。

教職員学校評価の「体育の授業や外遊びなどを通して、児童の体力作りに努めている」の項目が、3ptから3.4ptと向上しており、授業改善研修などのおかげで、本校職員の体育に関する意識の向上がみられた。

(3)その他



フィットネスチャレンジながさき(チャレンジ8の字跳び)



保護者・地域体力向上実践セミナー



持久走記録会

なわとび級表 A												
学年	前年				今年				備考			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
150	10	10	0	0	2	2	0	0	15	多		
140	15	15	0	0	5	5	0	0	30	多		
130	20	20	1	0	10	7	0	0	45	多		
120	25	25	2	1	15	10	1	0	15			
110	30	30	5	2	20	15	2	1	15			
100	40	40	7	5	2	1	25	20	3	2	1	15
90	50	50	10	7	5	2	30	25	4	3	2	15
80	60	60	15	10	7	3	40	30	5	4	3	2
70	70	70	20	15	10	4	50	40	7	5	4	3
60	80	80	25	20	15	5	60	50	10	7	5	4
50	90	90	30	25	20	7	70	60	15	10	7	5
40	100	100	40	30	25	10	80	70	20	15	10	7
30	110	110	50	40	30	15	90	80	25	20	15	10
20	120	120	60	50	40	20	100	90	30	25	20	15
10	130	130	70	60	50	25	110	100	35	30	25	20
0	140	140	80	70	60	30	120	110	40	35	30	25
ペナ												

なわとび級表 B													
学年	前年				今年				備考				
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
1100	2	1	1	0	1	0	0	0	15	多			
1000	4	2	2	0	2	0	0	0	30	多			
900	6	4	3	1	3	1	0	0	45	多			
800	8	6	4	2	4	2	1	0	15				
700	10	8	5	3	5	3	2	0	15				
600	15	10	6	4	1	8	4	3	1	15			
500	20	12	8	5	2	10	5	4	2	15			
400	25	15	10	6	3	12	6	5	3	15			
300	30	20	12	7	4	14	8	6	4	15			
200	35	25	14	8	5	16	10	7	5	15			
100	40	30	16	9	6	1	18	12	8	6	1	15	
0	50	35	18	10	7	2	20	14	9	7	2	15	
300	60	40	20	12	8	3	22	16	10	8	3	1	15
400	70	45	25	14	9	4	25	18	12	9	4	2	15
500	80	50	30	16	10	5	30	20	14	10	5	3	15
ペナ													

なわとびカードを配布し、全校で取り組む

3 年間のふり返り

新体力テストの結果から、投げる力や巧緻性に課題がみられ、また、児童の運動習慣についても年度当初の情意面アンケートから「1週間の運動時間0分」が2人、「体育の授業があまり楽しくない」「体育の授業でやり方がわかることがあるか」の項目に否定的な回答もあり、本校の課題とした。そのことをふまえ、今回の取組を提案した。

体力面については、次年度の新体力テスト結果を分析していきたい。児童の情意面については、「1週間の運動時間0分」はいなくなり、60～419分の人数が増加した。また、「体育の授業があまり楽しくない」「体育の授業でやり方がわかることがあるか」の否定的な回答がなくなった。「やや楽しい」や「だいたいある」の人数が増加した。

これは、体育の授業改善に取り組んだ成果である。児童の実態に合わせた場やルールの設定、学習指導要領に基づいた授業づくりなどの研修を行ったため、教職員に体育の授業づくりのポイントが浸透したのではないと思う。

また、「保護者・地域体力向上実践セミナー」や「チャレンジ8の字跳び」など授業外の取組のおかげで、進んで外遊びを行ったり、放課後も親子で運動をしたりする児童が増え、運動習慣の改善につながったと考えている。

課題としては、体力向上の取組を今年度だけで終わらせるのではなく、継続して行うことである。次年度は、学校が統合し、児童数も増えるので、今年度の取り組みを継続して、体力向上に努めたい。

『学校・地域！いっしょに動こ～で「健やかな体」育成プロジェクト』
令和7年度体力向上推進モデル校 実践報告書


1 学校名

長崎市立城山小学校

2

(1)「学校をプレイパークに！」

1	ケンウォーク
	
向上を図る体力	巧みな動き
場の説明	体育館横の区間にフラットフープ・フラットラインを置いた。通るたびに児童が繰り返しケンパの遊びをすることで、本校の課題である「反復横跳び」の向上を図った。
使用した物	フラットフープ・フラットライン
児童の様子や成果等	登下校時に何気なくケンパをする児童が多かった。フープがあることで思わず体が動く様子が見られ、運動に親しんでいた。休み時間にはこの場を使ってドンジャンプをするなど他の運動にも発展していた。

2	惑星ジャンプ
	
向上を図る体力	巧みな動き、動きを持続する能力
場の説明	体育館内のギャラリーからボールを吊り下げて設置した。体育学習時の準備運動や休み時間の体育館利用時に児童が繰り返し跳ぶことで、「立ち幅跳び」の向上を図った。
使用した物	柔らかいボール・ひも
児童の様子や成果等	吊り下がっているの思わずジャンプする様子が見られた。高さを変えることで自分に合った場または少し高い場に挑戦していた。体育館のため、他のプレイパークに比べ経験しにくい課題もあった。

3	あくりょクレーン
	
向上を図る体力	力強い動き
場の説明	<p>児童玄関前にブースを設け、隙間時間でも手に取れるように設置した。朝の時間や休み時間にグリップを握ったり、握力計で測定したりすることで、本校の課題である「握力」の向上を図った。</p>
使用した物	握力グリップ・お手玉・握力計・かご
児童の様子や成果等	<p>児童玄関に設置し、全校児童が手に取りやすい環境を整えることで、多くの児童がグリップを握ったり、握力計で測定を行っていた。握力の測定値を記入するようにしたらさらに多くの児童が手に取るようになった。</p>

(2)「分かって、できて、楽しい体育授業」



地域スポーツレジェンド派遣事業



2-3公開授業

(取組内容や児童の様子や成果等)

地域スポーツレジェンド派遣事業では、5年生の「ゴール型 バasketボールを基にした簡易化されたゲーム」の学習を行った。パスやドリブルの仕方の手本を見せてもらうことで、イメージしやすく、楽しくゲームを行うことができていた。

2-3公開授業では、「バウンドキャッチゲーム」を行った。年間を通して授業や学級の中で使用してきた「ピースフルワード」を用いることで、児童が「体を動かすことは、楽しい。」「友達と仲良くゲームができた。」と実感できる学習になった。

(3)その他



家庭と連携した取組(しろスポにチャレンジ！)



保護者・地域体力向上実践セミナー

3 年間のふり振り返り

(児童の用紙の変化や成果、課題等)

「運動やスポーツ、体育授業に関するアンケート」では、「運動やスポーツをすることが好きですか。」という問いに、年度当初には3～6年生で「好き」な児童が約60%を占めており、年度末の結果でも大きな変化はなく、維持している。「体育の授業は楽しいですか。」という問いに対し、肯定的な回答が年度当初は、3・4年生は85.7%だったものが、年度末には91.8%と、体育の授業が楽しいと感じる児童が増えてきている。課題としては、運動量の確保・増加である。5・6年生の「1週間でどのくらいの時間、運動やスポーツをしますか。」という問いに対し、60分以上420分以下運動やスポーツに取り組む児童が、年度当初と年度末で約70%と体育の授業以外で体を動かす機会が高学年になるにつれて少なくなっている。